

にし阿波で起業する人材の育成を目指す まちしごとファクトリー

にし阿波学舎（井川総合支所内）でオープニングフォーラム



会場と明治大学をつなぎパネルディスカッション



起業のきっかけを語るパネリスト



松場登美さんによる基調講演

地域の中でしごとを創りだし、地域を変えていく取り組みを支援しようと地域活性化に向けた担い手育成支援プロジェクト「まちしごとファクトリー」オープニングフォーラムが7月5日、徳島大学にし阿波学舎（井川総合支所内）で開催されました。

フォーラムでは、石見銀山生活文化研究所所長の松場登美さんを講師に迎え、「小さなまちを拠点にしごとを創る、まちを創る、群言堂のこれまでとこれから」と題し基調講演が行われ、松場さんからは「社会を変えていくのは一人一人の生活者。どんな小さなビジネスでも生活者に思いを伝えていけば社会を変えることができる。ぜひ徳島から大きな波を起こしてほしい」と語りられました。また、地域の力を引き出す「まちしごと」の在り方をテーマにパネルディスカッションが行われ、地域の廃校や空き家を活用している起業家らが起業のきっかけや活動内容、都市部にいたときとの生活の違いなどを紹介し、起業を考える参加者などにエールを贈りました。

三好市サテライトオフィス現地研修

多様な雇用の場の創出を目指し 企業誘致セミナー



地元企業の方々と情報交換を行う参加者



東京での企業誘致セミナー



参加企業を前に黒川市長によるあいさつ

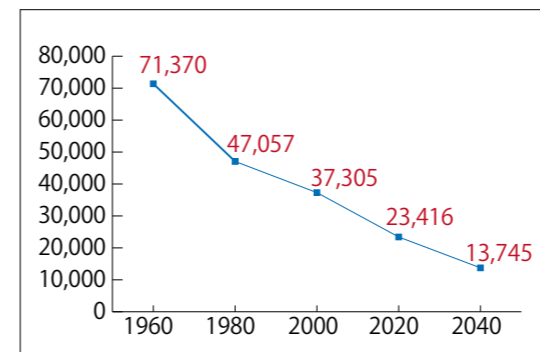
三好市では都会から地方に進出する企業のオフィスをサテライトオフィスと呼んでおり、多様な雇用の場の創出を目指し、誘致活動に取り組んでいます。

6月に大阪および東京でサテライトオフィスに関心を持つ企業を対象に誘致セミナーを開催し、セミナーに参加した企業の中から三好市に興味を持っていただいた企業に参加を呼びかけた結果、東京5社、広島1社の参加を得て、7月24日に現地研修会を開催しました。

オープニングセレモニーでは、黒川市長から歓迎のあいさつの後、参加企業の方々に三好市の概要を映像で紹介し、続いて担当課から進出に対する支援措置の説明、三好公共職業安定所からは雇用状況や支援体制の説明が行われました。

その後、先行して進出している企業3社と地元企業1社を訪問し、熱心な情報交換が行われました。

9月には、第2回誘致セミナーの開催を予定しています。



▲出典：国勢調査・日本創生会議の人口推計



▲第1回三好市地方創生推進協議会

三好市は「消滅可能性都市」?

昨年、民間の有識者で構成される日本創成会議の人口減少問題検討分科会は、2040年には若年女性の流出により全国で896の市区町村が人口減少により消滅の可能性があると発表しました。「市」になると発表しました。同会議が発表したデータによると、三好市の人口は、25年後の2040（平成52）年には、13745人で、5年前の2010（平成22）年の人口29951人の半分以下になると予測され、三好市も消滅の可能性があるとされています。

地方創生とは

こうした状況を踏まえ、我が国における急速な少子高齢化の進展に的確に対応し、日本全体、特に地方の人口の減少に歯止めをかけること、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みやすい環境を確保して、将来にわたって活力ある社会を維持していくこと（地方創生）が、喫緊の課題となっています。

このため、国は「まち・ひと・しごと創生本部」を設置し、「まち・ひと・しごと創生法」を制定するとともに、同法に基づき「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」および「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を閣議決定しました。

三好市人口ビジョンおよび総合戦略の策定について

この閣議決定を受け、すべての都道府県や自治体は、人口減少対策と地域の特性を生かしたまちづくりを実施する

第1回協議会を開催

6月30日、三好市は幅広い分野の有識者や市民による「三好市地方創生推進協議会」を設置し、池田町マチの阿波池田うだつの家で第1回目の協議会を開催しました。

今回は、主に人口動向の分析や総合戦略の方向性について話し合いが行われ、委員からは、「広域的な枠組みでの取

り組みが必要」「若者が安心して住み続けられる環境の整備が必要」「市民がふるさとの価値を再確認する必要がある」といった意見が出されました。会合は今後2、3回開催する予定で、次回は総合戦略の具体的な内容についての意見交換を行うこととしています。

なお、三好市のホームページで、第1回協議会の資料を公開しています。

皆さんのご意見をお聞かせください

三好市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定は、地域で暮らす皆さんとともに、三好市の未来を考えながら進めていきます。ご意見などがありましたら、地方創生推進課までお気軽にご連絡ください。

来月号では、「人口分析からみた三好市の課題」について、解説します。

【お問い合わせ先・ご意見先】
三好市役所地方創生推進課
(072-7607)

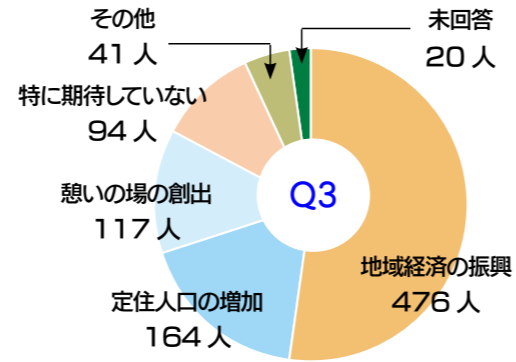
「三好市人口ビジョン」と「三好市まち・ひと・しごと創生総合戦略」

三好市では、人口減少対策と地域の特性を生かしたまちづくりを実施するため「三好市人口ビジョン」と「三好市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に取り組んでいます。このビジョンや総合戦略について皆さまに広く知っていただくために、シリーズで掲載してまいります。

活用効果について

Q3. 「旧船井電機跡地」の活用を通じて、どのような効果を期待しますか。(最も当てはまるもの1つに○印)

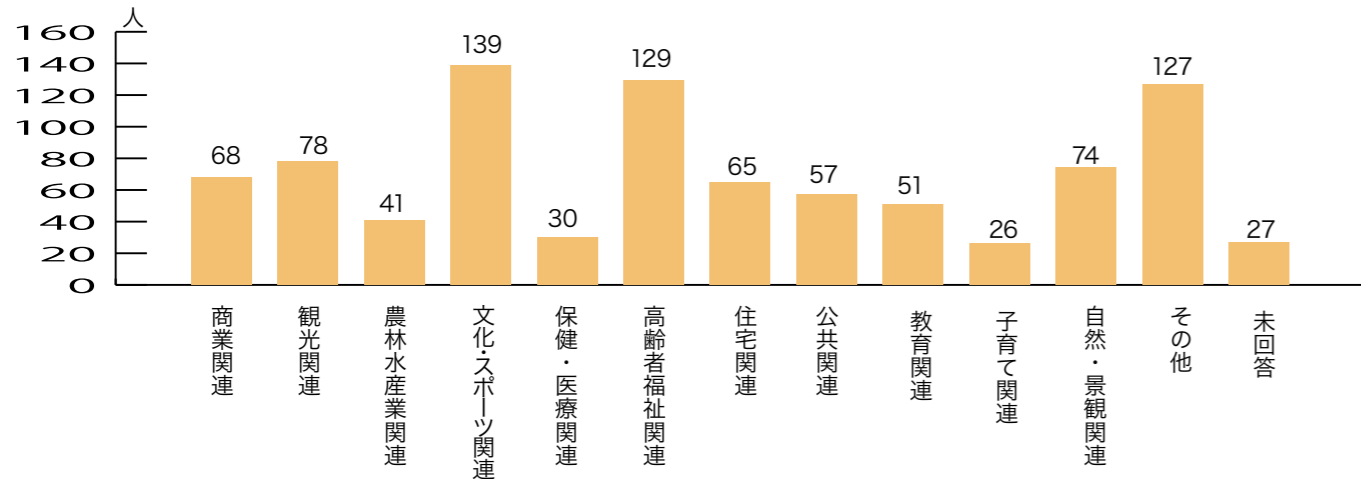
1	市外からの来訪者の増加や働く場所の創出による地域経済の振興	476人	52.19%
2	快適な居住環境の充実による定住人口の増加	164人	17.98%
3	自然を活かした憩いの場の創出	117人	12.83%
4	特に期待していない	94人	10.31%
5	その他	41人	4.50%
6	未回答	20人	2.19%



活用方法について

Q4. 「旧船井電機跡地」をどのようなことに活用した方が良いと思いますか。(最も当てはまるもの1つに○印)

1	商業関連 (例: ショッピングセンターや特産品販売所など)	68人	7.46%
2	観光関連 (例: テーマパークやレジャー施設宿泊施設など)	78人	8.55%
3	農林水産業関連 (例: 農産物品種改良施設や養殖施設など)	41人	4.50%
4	文化・スポーツ関連 (例: 市民センターや多目的グラウンドなど)	139人	15.24%
5	保健・医療関連 (例: 医療や健康増進施設など)	30人	3.29%
6	高齢者福祉関連 (例: グループホームやデイサービスなどの福祉施設など)	129人	14.14%
7	住宅関連 (例: 市営住宅や高齢者住宅など)	65人	7.13%
8	公共関連 (例: 防災施設や行政関連施設など)	57人	6.25%
9	教育関連 (例: 専門学校や研修施設など)	51人	5.59%
10	子育て関連 (例: 児童公園や児童クラブなど)	26人	2.85%
11	自然・景観関連 (例: 公園や広場等自然空間創出の場など)	74人	8.11%
12	その他 (例: 現状のままの利用など)	127人	13.93%
13	未回答	27人	2.96%



調査結果につきましては、直近の市民の皆さまの考えの現状値ととらえ、今後旧船井電機跡地の利用を検討する上での参考資料として活用させていただきます。アンケートにご協力いただきました皆さまには、お忙しいところありがとうございました。

なお、アンケートにおける自由記述でのご意見など、アンケート結果の詳細につきましては、市のホームページに公開しておりますので、ぜひご覧ください。

お問い合わせ先 **三好市役所 地域振興課** (電話 72-7649)

旧船井電機跡地利用についてのアンケート調査の結果を報告します

平成24年12月に船井哲良様よりご寄附いただきました池田総合体育館横の船井電機池田工場跡地の活用について、市民の皆さまが日ごろ思っていること、感じていることをお聞きするためにアンケート調査を実施しました。

調査対象および調査方法は、三好市にお住まいの方全員を対象に、性別、地区別、年齢別の人口割合に基づいて、無作為抽出された2,000人にアンケートを郵送しました。アンケートの内容は、「旧船井電機跡地についての認知度」「跡地の活用についての関心度」「活用効果について」「活用方法について」を選択式で回答していただきました。

調査期間は、平成27年5月28日にアンケートを発送し、回答期限を平成27年6月30日としました。



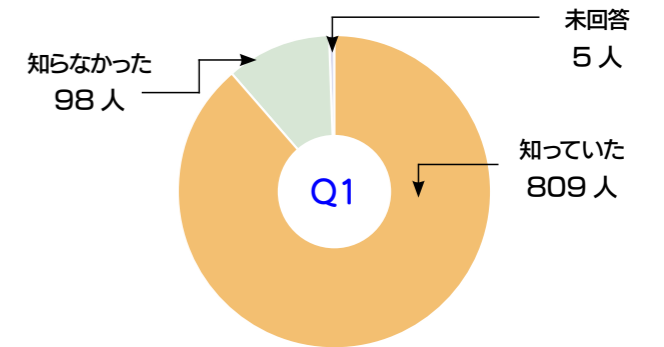
【回収結果】

三好市全域を対象とし、市民2,000人(無作為抽出)に調査票を送付し、912人(回収率45.60%)から回答を得ました。

旧船井電機跡地についての認知度

Q1. 三好市が池田地区に所有している「旧船井電機跡地」を知っていましたか。(1つに○印)

1	知っていた	809人	88.71%
2	知らなかった	98人	10.75%
3	未回答	5人	0.55%



跡地の活用についての関心度

Q2. 三好市では、「旧船井電機跡地」について、経済性を考慮し、誰もが容易に交流でき、知恵や文化の伝承につながる利活用を考えています。このことについて、あなたは関心がありますか。(最も当てはまるもの1つに○印)

1	関心がある	525人	57.57%
2	少し関心がある	231人	25.33%
3	あまり関心がない	99人	10.86%
4	関心がない	51人	5.59%
5	未回答	6人	0.66%

